

Google ストリートビューを活用した国有林利用の推進

中部森林管理局 木曾森林管理署 一般職員 池端 久美子
開田森林事務所 森林官 古澤 博

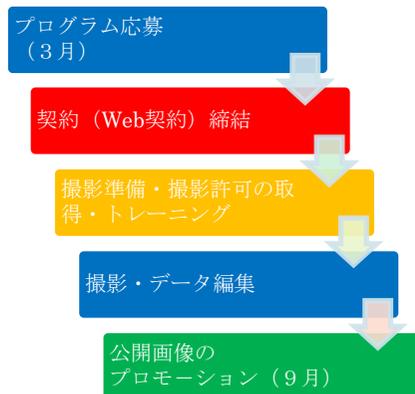
1. 背景

木曾谷は、江戸時代から江戸と京都を結ぶ中山道の宿場町として栄え、現在も御嶽山と中央アルプスに挟まれる自然豊かな地域として、特に中京圏からの観光客に人気があります。しかし、平成24年に発生した御嶽山噴火や南木曾土石流災害により年々観光客が減少しています。

一方、林野庁では、優れた自然景観を有し森林浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森として設定しており、レクリエーションの森を山村地域における観光資源として活用することを進めています。レクリエーションの森の需要を拡大するためには、地域の景観や魅力を発信する必要があり、今回、Googleストリートビューを活用した観光需要の拡大に取り組みました。

2. 計画と実行

Googleストリートビューとは、Googleが2007年に開始した世界中の道路沿いの風景をパノラマ写真で提供するインターネットサービスです。平成30年3月にトレッカーパートナープログラムに申込み、撮影は「トレッカー」と呼ばれる、リュックサック型の全方向カメラによって撮影しました（写真1）。撮影した画像はGoogleで画像処理を行い、同年9月に公開されました。



3. 撮影と普及活動

撮影は木曾森林管理署職員により撮影チームを構成し、Googleから撮影トレーニングを受け現地の撮影を行いました。

撮影期間は予備日を含め2週間設け、赤沢自然休養林、水木沢天然林、城山史跡の森、木曾御岳自然休養林の4箇所の計23.0kmを歩いて撮影しました（写真2）。

撮影したストリートビューは9月に公開され、それに伴う普及活動を行いました。地元新聞社へのプレスリリース、地元へ説明を行うとともに自治体や観光協会HPへのリンクの働きかけ、林野庁のFacebookや中部森林管理局の広報誌「中部の森林」へ掲載し情報を発信しました。

また、木曾森林管理署のホームページには新たにGoogleストリートビューのページを作成し、国有林内の見所を紹介しました。さらに、木曾谷の森林や林業に関わる様々な歴史や文化を物語のように巡れるようなホームページも作成しました。

4. 今後の展開

令和元年度も、引き続き木曾谷でストリートビューを撮影しています。今後は、国内外の沢山の人がストリートビューをみて、現地に足を運びたいような情報発信の工夫、高齢者や傷病者等、現地に足を運ぶ事ができない人にも楽しんでもらうための方法を考えていきます。また、更なる普及活動として、ホームページの多言語化や継続的なSNSでの配信、スマホやタブレット、VRへの適応も可能だと考えています。



(写真1:撮影機材「トレッカー」)



(写真2:撮影する様子)